

長江再生(中国)

長江(揚子江)の中下流一帯では、長江に通ずる湖が従来約 100 カ所から 3 カ所に減少した結果、湖の生態環境は著しく破壊され、洪水防止や貯水能力も大幅に低下した。1998 年に、1954 年以降で第二番目の大洪水を経験した長江では、洪水後の対策として、水理システムの建設、流行病の制御、住居地域の再建、生態系の回復、国際協力への期待などの総合的な対策を国家として決定し、実施している。また、湿地を中心とした自然の再生に取り組んでいる。

◆ 再生のポイント

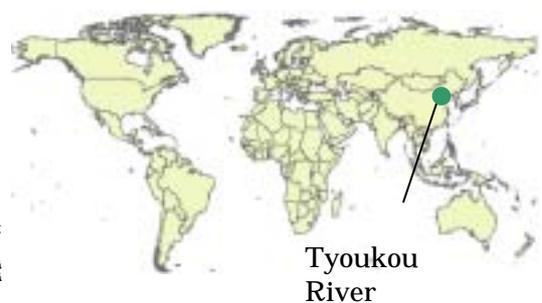
- ▶ 「生きている長江」プログラム
- ▶ 流域の保水機能の復元
- ▶ 湿地の復元、森林再生

◆ 長江の概要

長江(揚子江)の長さは 6300km と世界第三位、流域面積は 180 万 km² と日本の面積のほぼ 5 倍に及ぶ。

中国全土の淡水資源の 40%がこの長江流域に存在する経済的にも重要な自然である。

中国の人口の 3 分の 1 の以上の生活の場となっており、「魚とコメの国」である中国文明の揺りかごの一つである。川の下流部では平坦な土地と水が、高密度の人口と密集的工業の集中する諸都市の成長を可能にしている。



◆ 再生のために実施した事業

【「生きている長江」プログラム】

1998 年、大水害になった洪水の直後に、中国政府は、湿地の復元と森林再生を重視する総合的な治水政策を発表した。この政策に実践的な支持を与えること、及び長江流域での持続可能な河川流域管理のビジョンと方法を普及させることを目的に、「生きている長江」プログラムが始められた。

1998 年から 25 年以内に生き生きとした長江を回復させ、中国国民にとって、将来のための揺りかごとなるよう再編する。

【流域の保水機能の復元】

中国では、遊水地や遊水機能を有している湖が次々と干拓され、流域の持つ遊水機能の低下が問題視されていた。このため、締め切り堤防を撤去し、遊水地に戻すことにした。全国 877 の湖の堤防を撤去し、9770km² を遊水地に戻す計画で、400 万人の移転を伴う。長江流域では、2900km²、190 万人が移転する計画である。

遊水機能の復元は、思想的には、ライン川、ミシシッピ川での対策とも相通じるものである。

【湿地の復元、森林再生】

中国政府は湿地の保護を重視し、1992 年「国際湿地条約(ラムサール条約)」に加盟した。1994 年、中国政府は湿地保護と合理的利用を「中国アジェンダ 21」に組み入れ、湿地の保護を優先的発展の地位に置いた。